

# フレッシュマン・ウインド・アンサンブル演奏会

2020年12月5日(土) 19:00 開演 (18:30 開場)

洗足学園音楽大学 前田ホール

## Program

J.バーンズ／交響的序曲

James Barnes(b.1949) // Symphonic Overture

A.リード／交響曲第3番：第2楽章 ワーグナーの1882年の「ポラッツィ」の主題による変奏曲

Alfred Reed(1921-2005) //Symphony No. 3 II. Variations on the 'Porazzi' theme of Wagner

G.ホルスト／吹奏楽のための第2組曲 へ長調

Gustav Holst(1874-1934) //Second suite in F for military band

1.行進曲 2.無言歌 3.鍛冶屋の歌 4.ダーガソンによる幻想曲

—休憩—

兼田 敏(1935-2002)／吹奏楽の為の序曲

長生 淳(b.1964)／楓葉の舞

### △新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

## —ご挨拶—

本日はお寒い中、そしてこの大変な事態の中にもかかわらず、ご来場頂きまして誠にありがとうございます。

ご承知の方もいらっしゃるかと思いますが、このコロナ禍により、前期のコンサートも中止となってしまいましたので、本日が今年のフレッシュマン達のデビュー、そして最初で最後のコンサートとなります。当初は、例年通りに外国人の素晴らしい指揮者をお迎えしての豪華なコンサートの筈でしたが、この事態によりまして、それも叶わぬ事となってしまいました。そういう事情もありまして、今回だけは不躰ながら授業担当責任者の私自ら、タクトを振らせていただくことになりましたことをどうぞお許しください。私はプロフェッショナルな指揮者ではございませんので、お聴き苦しいところも多々あるかと思いますが、この時代だからこそ出来る心のこもった演奏を皆様に届けられますように、学生達ともども一生懸命頑張って演奏致します。どうか最後までフレッシュマン達の今だからこそ出来る演奏にご期待ください。

本日は、この大変な状況下に御運びくださいませ本当に有難うございました。

洗足学園音楽大学准教授

フレッシュマンウインドアンサンブル企画運営責任者

大和田雅洋

## —Profile—

### 指揮：大和田 雅洋（おおわだ　まさひろ）

洗足学園音楽大学准教授、フレッシュマンウインドアンサンブル企画運営責任者、大和田雅洋

宮城県出身。1990年、東京藝術大学音楽学部器楽科に入学。同年、第7回日本管打楽器コンクール、第2位受賞。1992年、第1回ジュール・ド・ブリース国際サクソフォンコンクールにおいて、セミファイナリストとなる（スウェーデン：アルヴィカ）。1993年、藝大フィルハーモニアとP.クレストンの協奏曲を共演する。1994年、東京藝術大学卒業後、東京藝術大学大学院音楽研究科に入学。第64回読売新人演奏会に出演。同年、第1回アドルフ・サックス国際サクソフォンコンクールにおいて第5位受賞（ベルギー：ディナン）。王立ワロニー管弦楽団とA.グラズノフ、H.ブスールの協奏曲を共演。第6回宝塚ベカ音楽コンクール 室内楽部門 第3位（1位なし）。1996年、東京藝術大学大学院修士課程修了。1998年、デビューリサイタルを浜離宮朝日ホールにて開催し好評を博す。2000年、第12回ワールド・サクソフォンコンGRESSに出演し、啼鶉作曲「フォー・カラーズ」を世界初演する。（カナダ：モントリオール）。これまで、様々な在京オーケストラのエキストラ奏者としても活躍してきた。

現在、ソロ活動の他、「カルテット・リベル」主宰、ソプラノサクソフォン奏者。TRIO「1214」、「Out of the Standard」等、様々なグループやユニットで活躍している。また、洗足学園音楽大学や全国各地のクリニック等において、後進の育成にも力を入れている。近年は吹奏楽指導者としても活躍しており、洗足学園音楽大学フレッシュマン・ウインド・アンサンブルの企画運営責任者として国内外の著名指揮者を招聘し、コンサートの企画プロデュースを行っている。みやひろ・ウインドアンサンブル音楽監督兼指揮者、グラールウインドオーケストラ・トレーナー。「響け!ユーフォニアム」音楽監修、映画「リズと青い鳥」吹奏楽監修を務める。

日本サクソフォン協会運営委員 洗足学園音楽大学准教授

サクソフォンを故大室勇一、富岡和男、須川展也の各氏に師事、ジャズサクソフォンを一戸祐三郎氏に師事



洗足学園音楽大学准教授、フレッシュマンウインドアンサンブル企画運営責任者、大和田雅洋

## —Program Note—

### ◆J.バーンズ／交響的序曲

J.バーンズは1949年、オクラホマ州ホーバート出身のアメリカ人作曲家。カンザス大学で作曲を学び、2015年春まで40年にわたって教鞭をとっており、現在は名誉教授である。バーンズの作品は作風や難易度も様々で演奏会で取り上げられる機会も多く、日本においても人気の高い作曲家である。

この曲はアメリカ空軍バンドの創立50周年を祝うために委嘱された作品であり、演奏会のオープニングにもふさわしい、大変ゴージャスで高度な技術を要する作品である。

冒頭からホルネットとトランペット、途中からトロンボーンも加えた8声部にもおよぶ壮大なファンファーレで曲が始まる。テンポが速くなったAllegro vivoではトロンボーンから始まりホルン、ホルネットと続いていくシンコペーションを利かせたリズムや、木管楽器の目まぐるしい8部音符が提示部への高揚感を高め、序奏部分を華やかに締めくくって主題提示となるオーボエのソロに繋がっていく。序曲らしい爽やかさや豪華さももちろんあるが、突然静まり、チャイムを中心とした打楽器のソリへ移る場面もスピード感は失っておらず、提示部のみでも音楽のコントラストが豊富でとても魅力的である。

中間部のAdagio Maestosoでは木管楽器を中心にバーンズならではの美しいメロディーにのせて、各楽器の持ち味が十分に活かされたソロやソリが展開され、全体へと移り、重厚感のある音楽へと広がっていく。

Ancora Allegro vivo から始まる後半部分では、弾むようなホルンのリズムやワインの栓を抜いたようなポップガンの音、まるで会話をしているような木管楽器の掛け合いから始まり、冒頭のファンファーレや第一主題を交えながら華やかなクライマックスへと向かう。

（フルート 池田 徳羽子）

### ◆A.リード／第三交響曲より2楽章

1983年の秋にワシントンの米国空軍軍楽隊から作曲の依頼を受けて翌年2月から構想を練り、1985年頃から本格的に着手した。1987年9月に最終的に3楽章形式にすることを決め、1988年2月に完成したもので約3年の年月をかけて作曲された曲である。名手のそろっている米空軍バンドを意識して作曲された為、技術的にも高度な作品である。

第一楽章 充分に保持して重く

この楽章は、ティンパニやチューバのC音の執拗低音により衝撃的にゆっくり開始される。木管楽器の三連符の装飾を伴ってトランペットが現代的な旋律の主題を奏し、ホルンが絡まる。主部は、序奏のトランペットの主題にもとづく速く激しい動きの楽章である。

第二楽章 憧れを持ってゆっくりと

オーボエのソロから始まりクラリネットが引き継ぎ、さらにオーボエに戻って提示部に入る。その後、クラリネットのソロの3連符による美しい変奏に入り、ホルンによる第2変奏が続く。第3変奏からは木管楽器のテュッティによる響きのある変奏となり、第4変奏は木管楽器の高音によるロマンチックな変奏でいっばいに引き伸ばすような緊張感をつくりだす。再びオーボエの初めの主題が断続的に奏でられ、静かに終わる。

第三楽章 速く、はっきりと

トランペットによる上行形の主題によって開始され、最もリードらしい手法の楽章である。ホルンが奏する主部の主題に入り、この主題がフーガ風に展開されて金管楽器が輝かしく奏でる。その後、緊張感のある打楽器のアンサンブルとなり、金管楽器が受け継ぎ迫力のあるメロディーになる。木管楽器による静かなメロディーが続き、金管楽器の主題が戻ってきてクライマックスを迎える。

（クラリネット 浦川 乃阿）

洗足学園音楽大学准教授、フレッシュマンウインドアンサンブル企画運営責任者、大和田雅洋

### ◆G.ホルスト／吹奏楽の為の第二組曲

この曲の作曲家グスタヴ・ホルスト（1874-1934）は、19世紀末から20世紀の初めにかけてイギリスで活躍した作曲家で、スウェーデン人の音楽家を父にもつホルストは、父からピアノの手ほどきを受け、やがて作曲にも興味をもつようになり、ロンドンのロイヤル音楽カレッジで学ぶこととなる。卒業後は、トロンボーン奏者として活動したのちロンドン郊外のセントポール女学校の音楽科主任となり、これと並行し、作曲家、音楽指導者としてさまざまな活動を展開していく。

今回はそのホルストが作曲した中でも有名な作品である「吹奏楽のための第二組曲」を演奏する。この曲はイングランドの民謡を用いて作られている。

最初の「マーチ」は、高らかに軽快な音楽で始まり、同じフレーズがいくつも出てくることがあるものの演奏しているパートや木管・金管で追いかけてくをしているような所もあり聞いている人を飽きさせない。「無言歌」には歌詞があり、両親に結婚を反対され精神病棟に入れられたという過激な歌詞になっている。その情景が浮かぶかの如く哀愁漂う雰囲気となっている。「鍛冶屋」の歌では、ハキハキとした無言歌とは、対比にも近いような曲調になっておりキレのある音楽が特徴である。「ダーガソン幻想曲」は、言うなれば山の形をした曲になっており、最初の少人数のグループから段々と増え大きな塊となる、そして最後にはまた小人数へと戻るという内容の音楽になっている。

曲としては長い曲ではないものの、ストーリー性のある音楽となっており、その瞬間の音楽の変化がとても楽しい曲である。

（サクソフォン 竹内勇人）

洗足学園音楽大学准教授、フレッシュマンウインドアンサンブル企画運営責任者、大和田雅洋

### ◆兼田敏／吹奏楽の為の序曲

兼田敏は中学時代にホルネットを演奏し、現在の京都市立京都堀川音楽高等学校を経て東京藝術大学作曲家に入学。その後は日本の吹奏楽文化の発展のために大きく貢献し、数多くの吹奏楽作品を世に残した。この『吹奏楽のための序曲』は1965年にヤマハ吹奏楽団の委嘱により作曲されたものである。

冒頭でクラリネットによって大らかに歌われる旋律に対し、ミュートを付けたトロンボーンやグロッケンがそれに呼応し、どこか日本らしい美しい情景を描写する。その後は祭りのような9/8拍子のリズムに合わせた軽快なアンサンブルや、トランペットとトロンボーンによる重厚な旋律が奏でられると曲は一気に盛り上がりを見せ、熱狂的で民謡風な音楽が幕を開ける。

この楽曲では曲調が変わるその瞬間、「物理的な空白」「間」を作曲者が効果的に使用している。これもやはり、日本の情緒を表す一つの仕掛けであるとみられる。

ちなみにこの楽曲で使用される打楽器はたったの3種類(ティンパニ、サスペンデッドシンバル、グロッケン)のみである。ひとつの楽曲で使われる打楽器の数としては非常に少ないが、これら3つの楽器による効果は曲の随所で大いに発揮されている。

鳴り止まない祭りのリズム、壮大なトゥッティ、和太鼓風なティンパニによる連打の響きと共に曲は締めくくられる。

（トランペット 神山 柁紀）

洗足学園音楽大学准教授、フレッシュマンウインドアンサンブル企画運営責任者、大和田雅洋

### ◆長生淳／楓葉の舞

この曲はヤマハ吹奏楽団が委嘱した長生淳の「四季連禱」という四つの作品群の中の最後を飾る「秋」そして「別れ」をテーマにした作品でありヤマハ吹奏楽団の団員が一人辞めることを聞いた長生淳が別れをイメージして作った。吹奏楽コンクールでも演奏され、たちまち人気が出た。曲の冒頭は、タムタムとチャイムの静かな響きの中、ため息のようなクラリネットの旋律によって始められ、ゆっくりながらも着実に盛り上がる。緩やかな序盤を過ぎたあたりからテンポが上がり、別れが近いことを告げているかのようなのである。鋭く小太鼓の音とともに煽るような手拍子、中間部では拍子感が変わりより一層時間の経過を早く感じさせる。中間部を過ぎると冒頭以上に哀愁をおびた繊細な音楽になってゆく。ここではファゴットのソロがより切なさが増し別れの悲しみを再現している。

しかし、その後オーボエのソロからは一転し、音楽は前へと進み始め、暖かくもりあがり堂々としながらもさりげない終結部へと入っていく。最後は管楽器のユニゾンの迫力や鍵盤楽器流れるような動き、全体を支える重厚な低音がぶつかり合うように混ざり合う。

この終結部は彼の別れに対する複雑な感情の終結を表しているのではないだろうか。

（打楽器 芳賀 俊之）

洗足学園音楽大学 フレッシュマン・ウインド・アンサンブル  
Freshman Wind Ensemble

「フレッシュマン・ウインド・アンサンブル」は、1年生のみで構成された、若き溢れるウインド・アンサンブルである。爽快で物怖じしないパワフルな演奏が身上。吹奏楽の代表的なオリジナル作品から、アレンジ作品まで幅広いレパートリーに取り組み、合奏の基本や表現技術を習得すべく日々研鑽を積んでいる。これまでに客演指揮として塩澤安彦、山下一史、ヨハン・デ・メイ、ヤン・コベル、ロレンツォ・デラ・フォンテ等、国内外を代表する指揮者を招聘している。

—Members—

Concertmaster	浦川 乃阿	佐々木 音美							
Flute	池田 徳羽子	金子 幸恵	菊地 晃空	行徳 ほのか <sup>♪</sup>	齊藤 麗	清水 花恵	鈴木 彩良	鈴木 佑葉	
	松崎 まり	宮内 葉歩	山上 智寛	山田 希宝	伊部 華椰乃				
Oboe	奥野 彩 <sup>♪</sup>	鈴木 啓美 <sup>#</sup>	土屋 愛菜 <sup>#</sup>						
Clarinet	浦川 乃阿	北池 莉々夏	佐々木 音美	末光 はるか	関田 稜祐	トラングエン ゴックアン		村松 優衣	
	矢ヶ崎 貴史 <sup>♪</sup>	鶴澤 萌 <sup>#</sup>	田村 慧太 <sup>#</sup>	平野 佳太 <sup>#</sup>	二瀬 結衣 <sup>#</sup>	町田 貴紀 <sup>#</sup>	今泉 真緒		
Fagotto	及川 夏海 <sup>♪</sup>	渡邊 陽南	菊池 愛 <sup>#</sup>						
Saxophone	阿部 未来	石田 真彩	大幸 拓未	大澤 茉依	加藤 恵莉菜	亀澤 咲葵	小林 磨弥	齊藤 湊太	
	佐藤 零	志賀 友香	渋谷 瑛奈 <sup>♯</sup>	下藤 香花	鈴木 智尋	鈴木 ましろ	竹内 勇人	中瀬 凱大	
	中原 雄太郎	永吉 すず音	八木 寛菜 <sup>♪</sup>	山崎 遼介	戸高 南美	チョウ ショウカン			
Trumpet	池谷 彰恩	石井 華音 <sup>♪</sup>	大津 泰	鹿野 円香	北山 唯	神山 征紀	五月女 啓太	鈴木 ころこ	
	田口 秀斗	竹内 大輝	手塚 柚季	友野 楓 <sup>♯</sup>	トルグット ハヴィン	樋口 萌々花	藤原 くるみ		
	桃井 智穂	森本 璃音							
Horn	石野 奈々	梶田 茉朋	金井 亮介	田中 鈴夏	種子田 佳歩	直田 真潮 <sup>♪</sup>	中野渡 真咲	山本 海音	
Trombone	石原 愛香	裏木 りりあ	佐藤 頼星	鶴田 奈々 <sup>♪</sup>	中津 愛梨	伴 芽衣菜	宇賀那 晴臣	坂上 知	
	チ エンジュン	望月愛永							
Euphonium	市村 結衣	上柳 創大	大島 成実	佐々野 広雅 <sup>♪</sup>	清水 榛菜				
Tuba	遠藤 愛奈 <sup>♪</sup>	澤田 翔也	高島 佳樹	鈴木 快門	長谷川 夏帆	根本 大地			
Contrabass	小泉 聡一朗 <sup>♪</sup>	安田 廉 <sup>#</sup>							
Harp	三谷 真珠子 <sup>#</sup>								
Piano	西村 京一郎 <sup>#</sup>								
Percussion	阿南 杏佳	大野 紗楽	小川 友李江	川崎 友仁	熊谷 彩夏	柴田 貴丸	柴田 瑠美	芳賀 俊之 <sup>♪</sup>	
	廣木 太陽	宗像 桃子 <sup>♯</sup>	山野 智広	渡邊 拓斗	渡辺 優生	石井 順也			

\*=演奏補助要員

♪=パートリーダー

♯=インスペクター

企画運営責任者 大和田 雅洋

バンドトレーナー 宍倉 晃

指導教員 池上 政人 前田 綾子 泉 真由 田淵 哲也 中村 めぐみ 飯島 泉 中田 小弥香 鈴木 一成  
皆神 陽太 大貫 比佐志 勝俣 泰 中山 隆崇 神代 修 池上 亘 小田桐 寛之 菅 貴登  
岩黒 綾乃 小久保 まい 小倉 貞行 次田 心平 高田 亮 當仲 絵理

アカデミックコーディネーター 岩岡 一志

授業助手 北野原 由依